

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700488		
法人名	有限会社ライフネット		
事業所名	グループホームももたろう		
所在地	倉敷市船穂町船穂880-2		
自己評価作成日	平成 25年 9月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3372700488-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3372700488-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 9月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が笑顔で安心して過ごせるような家庭的な雰囲気作りを心がけている。天気の良い日には散歩やドライブがてら買い物に出かけたり、外食や地域の幼稚園児やボランティアの催しを取り入れ、利用者の方が地域と触れ合う機会も設けている。清潔な居住空間を提供するため、掃除にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の隣には睡蓮畑がひろがっており、居室の窓から睡蓮の花を眺める事ができるなど自然や季節を感じられる事業所である。事業所は平屋でリビングの天井が高く、開放感があり居心地がよい。また、室内やトイレなど掃除が行き届いており、清潔感がある。挨拶をさせて頂くと利用者の皆さんが笑顔で迎えてくれ、生き生きとした表情でいろいろな話をしてくれる。時には利用者同士での喧嘩もあるらしいが、お話を聞いているとこちらでの生活を楽しんでいる姿を感じることができる。管理者より、1人ひとりの職員が利用者に対してとても優しく、前向きに支援に取り組んでいると伺ったが、元気な利用者の様子を見ているとそれも納得できる。災害対策にも力を入れており、人命救助を第一に考え、防災訓練を行い、災害時の確認事項など全職員に周知徹底できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議で、理念を読むことで理念とケアを結び付ける意識づけを行っている。	『笑顔のサービス、安全なサービス、安心のサービス、心を見つめるサービス』という理念を代表者と相談し、新しく作成している。月1回の全体会議では職員全員で唱和し、理念の共有を図っている。また、日頃から認知症の方は不安を抱えていることを伝え、配慮した支援を心がけるよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで外に出かける時には、地域の人達と挨拶を交わしたり、職員と地域の人達が世間話をする等触れ合う機会がある。	地域の幼稚園との交流や町内のお祭り参加、ボランティアの慰問など恒例となっている。散歩に出かける時には職員から地域の方に声をかけ、お話するようにしている。また、中高生の職場体験なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れや職場体験などの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で、施設の報告を行い、委員の方々から意見、質問、要望を受けるようにしている。	2ヶ月に1回、開催している。町内会長や民生委員、地域代表の方、地域包括支援センター職員などが参加している。事業所の状況報告に加え、介護保険に関する情報提供や地域の情報交換など行っている。地域から参加してくれる方が、積極的に地元との交流の媒体となってきている。	運営推進会議の参加者がほぼ固定化されてきている印象があります。参加者の顔ぶれを増やし、新たな視点から意見をいただくことができる会議に発展することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や社会福祉事務所などへの相談や連絡などを密に取りながら協力関係を築くようにしている。	市町村の介護保険課には何か不明な点や聞きたいことがあれば電話にて連絡している。生活保護受給者の入居があるため、福祉課のケースワーカーとは連絡を取り合い、対応している。	今の所、市町村の介護保険課からの運営推進会議への参加はないと伺いました。事業所の活動を理解して頂くためにも、参加の呼びかけや議事録の提出など働きかけをしてはいかがでしょうか。検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保が不十分なため、ご家族とも相談し玄関の施錠は行っているが、抑圧感のない生活を送っていただけるようにできる限り身体拘束をしないように努めている。	安全確保の為、玄関は施錠しているが、窓は日中オープンにしており、快適に過ごせるようにしている。地域の見守りなど協力体制を築くことができれば玄関もオープンにしたいと考えている。年1回は身体拘束やネグレクト、言葉による拘束など研修を行い、意識づけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ネグレクトやコンプライアンスルール(利用者の権利擁護)などの研修を行ったり、虐待につながる行為の早期発見、早期報告をすよう、職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体を知らない職員もいる。学ぶ機会を研修で取り入れていきたいが、現状は研修できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族から質問や相談を受けた場合は、あいまいな返事はせず、「対応可能」あるいは「対応困難」とハッキリ伝えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方や利用者が遠慮なく意見や相談事が言えるよう、面会にこられた家族には利用者さんの様子等を細かく伝え、家族の方も意見が言いやすい関係作りに努めている。	家族の来訪時に利用者の現状報告をし、意見や要望を聞くようにしている。できる限り家族の意向を聞き、実現できるように努めている。その積み重ねもあり、家族から前向きな意見を言ってもらえる関係になってきている。毎月作成しているもたろう通信には個人通信欄を設け、必ず記入するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内で、職員からの意見や提案などは管理者を通じて、代表者に伝え、よりよいサービス提供が出来る様、前向きに努めている。	月1回の全体会議で職員からの意見を聞く機会を設けている。その場で言いにくい事などは随時管理者が聞き、代表者に伝えている。福利厚生や研修などの情報は事務所に掲示し、職員がいつでも見る事ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員がかかえている悩みや不満、人間関係を把握し、円滑な業務が行えるよう、環境整備を適切に行う努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は随時、掲示しているが、実際に研修に参加する職員はほとんどいないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な連携はない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所して日が浅い利用者には時間が許す限り寄り添い、他の利用者さんとの懸け橋の役割をしながら、安心して生活して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や悩みは充分な時間をかけて訴えを聞き、適切な助言を行うことで、安心感と信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係スタッフも交えて意見交換し、課題んお優先順位を見極め、適切な目標設定、サービス提供につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	”人生の先輩から学ぶ”姿勢を前提として日々の生活の中では、お互いの感情を共有できる様な雰囲気、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしでの変化や気づきなどを定期的に家族に伝えることで、家族の意見や要望を聞き取り、職員と家族が同じ思いで利用者を支援する様努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所付近をドライブしたり、馴染みの人が遠慮なく繰り返し足を運んで頂けるような雰囲気作りに努めている。	本人が住んでいた自宅付近を道案内をしてもらいながらドライブをしたり、思い出の品や写真を見ながら話をしたりすることもある。利用者によっては混乱してしまう場合もあるので、本人の表情を見ながら行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には、職員が潤滑油的な役割をしながら、利用者一人一人が気持ちよく、和やかに生活できる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、相談等の支援についても家族に伝えているが、相談などの例はあまりない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や家族からの情報等を参考にしながら、できる限り、本人の意向を取り入れ、その人らしい生活を送って頂くように努めている。	入居時やプラン更新時には本人や家族にしっかりと話を聞き、思いや意向を把握している。昔していた趣味活動や生活歴、バックグラウンドなどを把握し、利用者に合った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報などを参考にして、バックグラウンドを作成し、職員全員が経歴などを理解した上でサービスを実践する様、指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	”いつもと違う”行動や表情などに気づく観察力と他職員への情報提供や個人記録に事実を細かく記録するように指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ケアマネ、看護師、医師、介護職員、家族などからの意見を聞き、課題の変更などがある場合にはカンファレンスを行い、利用者の現状を即した計画作成を行っている。	介護計画更新時にはカンファレンスにて職員で意見交換し、作成している。また、本人に話を聞き、意向や思いを記入するようにしている。医療面に関してかかりつけ医に相談し、必要な事項は反映するようにしている。介護計画に対して目標に達成したかどうか等、担当職員が毎月モニタリングし、確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化がある場合は、関係スタッフで情報提供をし、必要に応じて随時、計画を見直す努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や外泊などにも柔軟に対応している。前例のないサービス依頼を家族から受けた場合は、事業所全体で検討し、可能な限り本人や顔ぶれの意向に添う様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に地域包括支援センターのケアマネにも参加してもらい、情報交換を行い、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ本人や家族の希望に添った受診体制を取っている。体調の急変時には24時間体制で対応してくれるかかりつけ医がいる。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。往診がほとんどだが、受診が必要な場合は職員が支援している。日頃の体調管理や主治医との連携は管理者や看護師が中心となり行っており、何かあればすぐに家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化や異常の早期発見に努め、看護師に報告、指示を受け、迅速かつ適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な個人情報を医療機関に提供し、定期的に病院スタッフや家族からの情報収集を行い、できるだけ早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を随時確認しながら、医師、看護師、介護職員が連携を図り、安心、納得した終末期を迎えられるように努めている。	今の所、看取り支援はしていない。入居時に家族にも説明し、理解を得ている。今後、看取り支援に対する研修や職員のメンタル面のフォローを取り入れ、できるだけ事業所で過ごすことができるよう支援していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変時の対応マニュアルを作成し、研修で職員に周知徹底している。急変や事故発生時には管理者への報告、指示に従う体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練及び消防署員からの指導を受けることで、対応を指導している。	年2回、避難訓練を実施し、職員が必ず1回は参加できるよう調整している。夜間想定での訓練も実施し、職員が利用者役となり避難誘導訓練等をしている。消防署の協力もあり、避難時の誘導や段取りについて助言をもらい、活かしている。	地域の方との協力体制作りのため、避難訓練の参加を働きかけるなど検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先輩としての敬意を払いつつ、和やかな生活環境の中で尊厳を守るよう言葉かけや対応に努めている。	日頃から「○○はどうですか？」など利用者自身が選択できるような声かけを心がけている。また、トイレなどデリケートな声かけは耳元でしたり、ジェスチャーで示したりするなど十分に配慮している。言葉かけや人権擁護について資料を読んでもらうなど研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせ、利用者が意思表示しやすい様な言葉がけや対応をする様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの意向を理解し、できる限り意向に添った対応をしたいが、入浴時間や食事メニューなどはスタッフの判断、都合で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際、衣服を利用者に選んでもらったり、アクセサリーの装着や、散髪時に顔そりをするなど、可能な限りその人らしいおしゃれをしていただける様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をホワイトボードに書いてもらったり、野菜の皮むきを手伝って頂いている。職員と利用者が一緒に食事をしたり、誕生日には本人が希望するメニューを提供するなどして食べる楽しみを持っていただいている。	玉ねぎの皮むきは〇〇さんが担当、ホワイトボードに献立を書く役目は〇〇さん、お盆拭きは〇〇さんと利用者がそれぞれ役割を持って食事作りに関わっている。週1回、移動パン屋が来所し、『今日はパンの日』と利用者が自分で選ぶ楽しみに繋がっている。職員も一緒に食事をしており、家庭的な雰囲気が感じられる。	利用者がそれぞれ自分の役目を意識しており、積極的に「ボード持って来て！」など職員に声をかけているのが印象的でした。また、お互いに意識し合うことで元気を維持していく力にも繋がっていると感じました。今後もこの雰囲気継続して下さることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量はチェックシートに記入している。食欲低下の際には、本人の嗜好品や高カロリー飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの生活習慣や家族の希望を大切にしながら、できるだけ毎食後に口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者も定期的に便器に座ることで、トイレで排泄していただく様になっている。状態変化や尿量によっては適切なオムツやパットに変更するなどの対応に努めている。	排泄チェック表に記入し、一人一人に合わせたトイレ誘導を実施している。排便について服薬や水分摂取などかかりつけ医と相談しながらコントロールしている。臥床時間が長く、褥瘡ができればすい方には介助時に皮膚観察や清潔保持の為、陰部洗浄をするなど対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	時間を決めて牛乳や飲み物を摂ることで水分摂取していただいている。個々の状態に合わせて、下剤の種類、量、服用間隔などを医師、看護師の指示のもとで調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向や生活リズムに添った入浴をしたいが、職員の都合で入浴時間や入浴していただく利用者を決めているのが現状。制限のある中で”気持ちよかった”と言って頂ける様な入浴サービスに努めている。	基本的に週3回入浴できるよう支援している。本人の希望があれば回数を増やすなど柔軟に対応している。入浴を拒否される場合は本人に合わせた声かけをし、清拭に変更するなど無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムのや体調を考慮しながら、日中の活動を促す様にしている。状態によっては、自室で過ごすことで安心して落ち着かれる場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が常時服薬の内容を把握できるようにしている。服薬する際には職員2名で日付、名前などをダブルチェックすることで誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴、習慣を全職員が把握し、能力に応じて作業や手伝いを依頼している。作業終了時には、感謝とねぎらいの言葉がけを必ず行う様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、戸外に出る機会を作り、ストレス発散や五感を刺激したいが、季節や天候、職員の都合などで、外出する利用者や時間帯、行先が固定化しているのが現状。	天気のいい日には近隣を散歩し、咲いている野の花を摘んだり、畑にできている作物の名前を話したりしている。季節に合わせてコスモスなど花を見に行ったり、外食に出かけたりしている。また、隣接する有料老人ホームでのイベントと一緒に参加したりすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少人数ではあるが、本人の安心感や満足感を尊重し、現金を所持している利用者はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届いた際には必ず送り主に連絡し、利用者自身に直接話をさせていただく様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態や室温計を確認しながら、こまめに室温調節をしている。ホールでの座席も時間帯によっては移動したり、カーテンの開閉や照明の調整も細かく行っている。	リビングの温度調整や窓の開閉による換気など配慮している。床は毎日ハイターを薄めたものでモップがけするなど掃除が行き届き、匂いもなく、清潔感がある。カレンダーや塗り絵など季節毎の作品も飾っており、季節感も取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関にソファや椅子を置くことで、くつろぎのスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や写真、馴染みの物を置くことで、居心地のよい空間作りに努めている。	ベッドやタンスは備え付けで用意されている。布団や家族の写真、利用者本人の作品など馴染みの物に囲まれ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。窓からは睡蓮畑や田畑の緑が広がり、季節も感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の多い利用者に対しては、転倒時のデータを確認し、家具や物品の位置を工夫し、できるだけ自立した生活を送りながら安全確保に努めている。		